

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 1 回	子ども部会	
日 時	令和 3 年 4 月 21 日 (水) 10 時 00 分～12 時 00 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 9 名	市職員 3 名	事務局 5 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り(名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	① 振り返り		
	② 就学説明動画について		
	③ 特別支援教育コーディネーター研修について		
	④ 今後取り組んでいく課題について		
	⑤ その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>最初に今年度の子ども部会員の自己紹介を行った。 部会長:丸山美希(リブレイン) 副部会長:澤田勢津子(ポレポレ)が 選任され決定した(敬称略)。</p> <p>① 振り返り 第 5 回報告書参照</p> <p>② 就学説明動画について 就学説明会について進捗状況を確認した。 ・チラン完成。動画は PowerPoint を元に 12 分程度の動画。 ・4 月 23 日から日進市の Homepage で視聴できる。</p>		

・動画から個別相談票と日進の福祉のページへリンクできるようになっている。

・4月12日に福祉サービス利用の該当者及び市内の保育園・幼稚園に案内を個別送信済み。今後市内の児童発達支援・放課後等デイサービスにメールし周知する予定。

③ 特別支援教育コーディネーター研修について

特別支援教育コーディネーター研修の合同開催に向けて様々な案を出し合った。

・今年度は学校で退職者が多く特別支援コーディネーターも入れ替わったため、初めてコーディネーターになる先生が多い。

・参考：以前は事業所見学、保護者の意見や思いを話し合うなどを行なった。

・放課後等デイサービスの紹介を講義形式で行ったが伝わり辛かった。

・事業所の見学の案もあるが、コロナ禍の中では難しい。

・放課後等デイサービスの紹介をする際に、説明は少なくして質疑応答を増やすのがよいのでは。

・市民会館の展示室を借りてポスターセッションを行うのはどうか。

・先生の側で事業所について何を知りたいかを分かった上での紹介がよいのでは。そのためには事前にコーディネーターの先生が特別支援担当の声を拾ってもらうことが必要。実際にアンケートを取って頂く。

→事前に特別支援コーディネーターの先生に、担任が事業所について知りたいことを聞いて頂き、6月の部会で再検討する。

・開催時期についても6月の部会で検討。

④ 今後取り組んでいく課題について

自由に意見を出し合った。

【事業所バスツアーについて】

・これまで就労部会のバスツアーと子ども部会のバスツアーがあり福祉的就労説明会もあった。しかし昨年度は就労部会のバスツアーと福祉的就労説明会の動画も見れなかった。→今年度は福祉的就労説明会の動画はオープンになっているので、小中学生の保護者も見ることができるようになる。

・特別支援学校の内容は説明会に入っていない。→三好特別支援学校では学校のHomepageの動画で説明している。対象が誰になっているかを確認。

・バスツアーを実施するかについて、次回子ども部会で確認。

【医療的ケアが必要な方に関するアンケートについて】

・前回の意見をもとに案を作成して、次回子ども部会で確認。

	<p>【事業所交流会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後等デイサービス事業所(多機能型含む)のみになっている件について。→もともと児童発達支援も参加していたが、開催時間が午前中であったため参加しづらかったのではないか。 ・児童発達支援事業所が抱えている課題を知る必要がある。→事務局で声かけをし、今年度中に集まる機会を設ける。 ・にっしん受診サポートカードについて。改善する必要があるという意見は、昨年度も出ていた。 ・療育に繋がっている方はすでにかかりつけの病院があり必要度が低い。サポートカードの必要性について、対象とする年齢・周知方法・カードの使いやすさなどの面から今後も検討する。 <p>⑤ その他</p>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和3年6月16日(水) 10時～</p>
<p>次回会場</p>	<p>障害者福祉センター 大会議室</p>

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第1回	子ども部会
日時	令和3年4月21日(水)10時00分～11時30分	
会場	障害者福祉センター 大会議室	
専門部会員		
① 谷本 由美	② 山本 哲也	
③ 岡田 美穂	④ 津田 勢津子	
⑤ 丸山 美希	⑥ 中島 範子(欠)	
⑦ 阿尾 匡晃	⑧ 柳田 慎吾	
⑨ 近藤 文子		

(市職員)

① 岡本 裕美	② 奥田 美紀
③ 信貴 朋子	

(事務局)

① 石川 博之	② 福田 有輝 (欠)
③ 白井 暢子	④ 小島 有紀子
⑤ 西澤 伸太郎	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 2 回	子ども部会	
日 時	令和 3 年 6 月 16 日 (水) 10 時 00 分～12 時 00 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 9 名	市職員 3 名	事務局 5 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り(名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	① 振り返り		
	② 特別支援教育コーディネーター研修について		
	③ 小中学生保護者向け事業バスツアーについて		
	④ 医療的ケアが必要な方に関するアンケートについて		
	⑤ 昨年度部会報告・今後の取り組みについて(確認)		
	⑥ その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した</p> <p>① 振り返り 第 1 回報告書参照</p> <p>② 特別支援コーディネーター研修について 【特別支援コーディネーター研修開催に向けて内容の検討を行った】</p> <p>資料①参照 ・教職員からすると、受給者証や療育手帳が何かそもそも知らないかも</p>		

しれない。困ったらどこに相談したら良いのかを知りたい。

・福祉制度や相談の流れなど、最低限の情報を印刷して配布すると、伝わりやすいのではないか。→特別支援 Co.は校務主任を兼ねているので、その会議で事前配布可能。

・冊子(にっしんの福祉)の内容の要点を説明できると良いのではないか。

・資料①の 1～3までは、事前資料を作って配布し、4～6 については、会議の中で質疑応答で各事業所は答えられるのではないか。→事前資料作成:子育て支援課信貴 (次回素案を作り検討する)。

・各事業所のパンフレットを集めて、コーディネーター研修で配布できるようにする。→6月30日までに各事業所からもらえるように手配:事務局。

・すくすく園の見学も行う:コロナ禍を配慮し班分けして見学。

・日程:9月14日(火)14時～16時で決定

③ 小中学生保護者向け事業所バスツアーについて

【今年度の実施するか否かについて検討した】

資料②参照

・就労部会で動画を作成中。7月中旬には完成予定。13事業所による10～20分程度の動画。

・次回子ども部会で動画の内容を検討したうえで、バスツアーを実施するか否かについて検討する。

④ 医療的ケアが必要な方に関するアンケートについて

【これまでの意見をもとにアンケートを修正した】

・分量を減らしたこと、現状と困りごとを聞くという趣旨を明確にした、困り事については例示して○をつける方式に簡略化した、過去の困り事も書けるようにした。

→修正稿を用いて、今後アンケートを実施していく。

⑤ 昨年度部会報告・今後の取り組みについて(確認)

【自立支援協議会本会での報告事項の検討を行った】

・今後の取り組みの1項目目(動画配信)は、就学説明会と明記する。

・サポートブックは日進市としての公式のフォーマットがなく、各事業所が独自に作成している状態。→すくすく園や、すでにある長久手市、愛知県のフォーマットを比較しながら、日進市としてのサポートブックの公式フォーマット作成を検討する。→今後の課題に追加する。

	⑥ その他 次回の日程変更の確認。→7月15日(木)10時～
次回開催日時	令和3年7月15日(木) 10時～
次回会場	障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第2回	子ども部会
日 時	令和3年6月16日(水)10時00分～12時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	
専門部会員		
① 谷本 由美	② 山本 哲也	
③ 岡田 美穂	④ 澤田 勢津子	
⑤ 丸山 美希	⑥ 中島 範子	
⑦ 阿尾 匡晃	⑧ 柳田 慎吾(欠)	
⑨ 牧野 泰介	⑩ 近藤 文子	

(市職員)

① 岡本 裕美(欠)	② 奥田 美紀
③ 信貴 朋子	

(事務局)

① 石川 博之	② 福田 有輝
③ 白井 暢子	④ 小島 有紀子
⑤ 西澤 伸太郎	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 3 回	子ども部会	
日 時	令和 3 年 7 月 15 日 (木) 10 時 00 分～12 時 00 分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 9 名	市職員 3 名	事務局 4 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り(名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	① 振り返り		
	② 小中学生保護者向け事業所バスツアーについて		
	③ 特別支援教育コーディネーター研修について		
	④ サポートブックについて		
	⑤ その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した</p> <p>① 振り返り 第 2 回報告書参照</p> <p>② 小中学生保護者向け事業所バスツアーについて 【動画を一部視聴し検討した後に、ツアー実施の可否を決定した】 ・動画は 13 事業所を紹介、共通の質問項目への回答が字幕で流れ、各事業所の特徴を音声で紹介する構成。別動画で、事業所の種類の説明動画と、事業所利用に至るまでの流れの説明動画もある。 ・事業所の紹介動画にいきなりいくよりも、事業所の種類全体を説明す</p>		

る動画が先の方が、保護者にとって丁寧なのではないかという意見があった。→リンクでそれぞれ跳べるようになっているので、周知の仕方では解決するのでは。

・就労部会で動画紹介のチラシも完成しているので、子ども部会で活用できるか？ →次回子ども部会で内容を検討した上で決定する。データがあれば各学校にデータで送ることもできる。

・配布の仕方：日進市広報と社会福祉協議会ホームページで案内し、さらに各学校と各事業所に配布する。

・動画を見ると、個々の事業所に連絡できるようにもなっている。

→議論の後、ツアーは中止し動画に変更することが決定した。

周知の仕方は、次回就労部会で検討される内容も踏まえ、次回子ども部会で決める。

③ 特別支援教育コーディネーター研修について

【特別支援コーディネーター研修開催に向けて内容の検討を行った】
資料参照

・各事業所のパンフレットは収集し各学校へ配布済み。

・研修の軸は、①相談の窓口を知ることと、②放課後等デイサービスとのつながりについて。

・特別支援教育コーディネーターで、どこに相談すればよいか分からない教師も多数いるので、意義がある。

・保護者が支援の選択で迷うときに、先の見通しも知りたいと思うことが多いので、簡単で良いので就労まで見据えた支援であることが伝えられると良い。 → 研修の最後で伝えられるようにする。バスツアーの案内にもつなげられると良い。

【研修内容の中で特に、放課後等デイサービスの紹介について詳しく検討した】

・事業所によって特色の違いは大きいので、共通テーマを決めて、それに従って各事業所が伝える。

・発表は、3事業所(リブレイン、じゃんぐるじむ、あいあいの家)が担当する。

・各事業所5分ではなく、合わせて15分という設定にして、内容を考える。

・放課後等デイサービスが、預かり機能だけでなく、プログラムを組んで支援しているということを知らない教師も多いので、伝えられるとよい。

・一人の児童が複数の事業所を使い、事業所間での役割分担があることを知らない教師も多いと思われるので、伝えられるとよい。

・すくすく園の見学も実施。教師としては、保護者からすくすく園の名前を聞くことが多い。また巡回相談でも子ども発達支援センターと関わっている。療育とは何か分からない教師も多い中で、実際を知りたい。

特別支援コーディネーター研修 9月14日 14時～16時
日進市障害者相談支援センター大会議室

④ サポートブックについて

【すくすく園他既存のサポートブックを参考にしながら、さまざまに意見を出し合った】

- ・サポートブックそのものを教師が熟読して支援に活かすということは少ない。
- ・保育園と学校では、遊びの時間と着席する時間の割合が大きく違うので、サポートブックに書かれている内容と学校現場での姿が異なることも多い。
- ・特別支援において、個別支援計画の作成は必須であるので、その時に参考にすることがある。
- ・保護者が教師やその他関係機関に児のことを説明する時に役立っている。また教師が聞く場合も、サポートブックがあると理解しやすい。
- ・保護者として、サポートブックを書くこと自体が、子どもを客観的に見つめ整理する機会になっている。
- ・分量が多いと、作成する保護者にとって負担もある。必ずしも全ての内容が必要とは限らない。
- ・ファイル形式にすると、学校等に伝える時に、必要なページだけを渡すことが容易になる。
- ・学校として知りたい情報は、大まかな生育歴や、相談歴、検査歴。
- ・学校の支援計画のフォーマット(日進市版)と擦り合わせながらサポートブックの内容を作成すると、効率的になるのでは。

→次回、日進市の支援計画のフォーマットも参考にしながら、検討を続行する。

→受診サポートカードの修正について、検討が中座しているので、次回検討する。

次回開催日時 令和3年10月20日(木) 10時～

次回会場 障害者福祉センター 大会議室

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第2回	子ども部会
日 時	令和3年6月16日(水)10時00分～12時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	
専門部会員		
① 谷本 由美		② 山本 哲也
③ 岡田 美穂		④ 澤田 勢津子
⑤ 丸山 美希		⑥ 中島 範子
⑦ 阿尾 匡晃(欠)		⑧ 柳田 慎吾
⑨ 牧野 泰介		⑩ 近藤 文子

(市職員)

① 岡本 裕美	② 奥田 美紀
③ 信貴 朋子	

(事務局)

① 石川 博之	② 福田 有輝
③ 白井 暢子(欠)	④ 小島 有紀子
⑤ 西澤 伸太郎	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 4 回	子ども部会	
日 時	令和 3 年 10 月 20 日(木)10時00分～12時00分		
会 場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 10 名	市職員 3 名	事務局 5 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り(名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	① 振り返り		
	② 小中学生保護者向け事業所バスツアーについて		
	③ 特別支援教育コーディネーター研修について		
	④ 就学向けサポートブックについて		
	⑤ 医療的ケアが必要な方に関するアンケートについて		
	⑥ その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した。</p> <p>① 振り返り</p> <p>② 小中学生保護者向け事業所バスツアーについて</p> <p>【小中学校への動画周知方法について検討した】</p> <p>・市役所、社協のホームページに掲載している。就労部会からは特別支援学校、障害児通所事業所へは周知していて、相談員からも個別の相談時に情報提供している。</p>		

- ・放課後等デイサービスでは、事業所によるが保護者に LINE で伝えたり、パンフレットを直接渡したり、室内に掲示しているが特に周知していない事業所もある。
- ・福祉サービスを利用していない児の保護者への伝え方について今回検討。
- ・学校教育課から各学校にデータをお渡しし、支援学級の児童に配布していただけないか。→持ち帰って検討
- ・次回の障害児事業所交流会(来年2月予定)で事業所向けに改めて周知する。
- ・特別支援教育コーディネーター研修でも紹介する。
- ・港特別支援学校については、日進市の在籍児童がいるか確認。
- ・専修学校や通信制高校に通う児への周知は把握することが難しい。

③ 特別支援教育コーディネーター研修について

【特別支援コーディネーター研修の日時・内容の検討を行った】

- ・9月14日開催予定だったが、緊急事態宣言のため延期。
令和4年1月11日(火)14時～16時、日進市障害者相談支援センター大会議室にて行うことを決定。
- ・研修の前半での事業所紹介は、同じ架空事例を使ってつながりを作りながら紹介する予定。担当者(じゃんぐる・おひさまルーム、リブレイン、事務局)で後日打ち合わせを行う。
- ・先生方が質疑応答しやすく、意見交換が活発にできるとよい。

④ 就学向けサポートブックについて

【内容について改めて検討した】

- ・もともとの意味は、保護者が子どもの特性を理解し整理すること、保護者が学校に伝える時に利用することで学校での支援につながる。
- ・既成のサポートブックは数種類あるが、大きく変わりはない(県教委にもフォーマットがある)。→新たに日進市独自のサポートブックを作るというよりは、サポートブックの存在を関係者に周知していくことが現実的な課題では。
- ・目標は、様々な支援の現場で使えるものを作ること。
- ・すくすく園では、サポートブックを書けないという保護者への支援もしている。現状に合わせて常にアップデートするものという認識。
- ・存在を知らない関係者は多数いる。(そもそも知らない、すくすく園で実施していることを知らない、保護者も学校以外に伝えよう)。
→次回、周知の仕方について検討する。

	<p>⑤医療的ケアが必要な方に関するアンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援課信貴さんより、R3年9月に施行された法案『医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律』について紹介。 →保育(所)園・学校での医療的ケア児への支援が、努力義務から責務に変更された。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園、小学校の受け入れに課題がある。特に移動(器具装着)に課題。看護師の配置が必要。 ・法律ができたことによって、現在対応を検討中のケースもある。 ・法律ができたことで行政での検討が今後進んでいく。今後関係者によるコア会議で検討し、子ども部会で報告や確認をしていくことになる。 ・学校への導入も必要。部会・チームの立ち上げは必要。 ・愛知県は医療ケア児の支援が遅れているのでは。他県では普通級に医療的ケア児が通っている例もある。 ・地域での受け入れが広がることで、医療が手薄になる、連携が遅れてしまうのではないかと心配。 ・保護者の離職の防止のための法律でもあるということが改めて大事なことだと感じた。 ・コア会議で地域課題を共有していく。地域で支える質と力量が求められている。 <p>⑥その他</p> <p>発達支援セミナー 令和3年12月1日(水) 9時半～11時 中央福祉センター 多機能室</p>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和3年12月15日(水) 15時～</p>
<p>次回会場</p>	<p>障害者福祉センター 大会議室</p>

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第4回	子ども部会
日 時	令和3年10月20日(木)10時00分～12時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	
専門部会員		
① 谷本 由美		② 山本 哲也
③ 岡田 美穂		④ 澤田 勢津子
⑤ 丸山 美希		⑥ 中島 範子
⑦ 阿尾 匡晃		⑧ 柳田 慎吾
⑨ 牧野 泰介		⑩ 近藤 文子

(市職員)

① 岡本 裕美	② 奥田 美紀
③ 信貴 朋子	

(事務局)

① 石川 博之	② 福田 有輝
③ 白井 暢子	④ 小島 有紀子
⑤ 西澤 伸太郎	

日進市障害者自立支援協議会 専門部会実施報告書

報告者	西澤 伸太郎	市確認欄	
専門部会名	第 5 回	子ども部会	
日時	令和 3 年 12 月 15 日 (水) 10 時 00 分～12 時 00 分		
会場	障害者福祉センター 大会議室		
出席者	部会員 8 名	市職員 3 名	事務局 5 名
	※出席者名簿は、別添のとおり		
傍聴者	有り(名:別添名簿のとおり) ・ <input type="text" value="なし"/>		
報告・検討 の内容	① 振り返り		
	② 特別支援教育コーディネーター研修について		
	③ 就学向けサポートブックについて		
	④ 医療的ケアが必要な方に関するアンケートについて		
	⑤ その他		
提出資料	別添のとおり		
主な意見	<p>次第に従って各項目について検討した。</p> <p>① 振り返り</p> <p>② 特別支援教育コーディネーター研修について 1 月 11 日の開催に向けて、「放課後等デイサービスとの連携への流れ」に関するリハーサルを行い、意見・感想を出し合った。 ・分かりやすい内容だった。 ・障害者相談支援センターに相談する機会があるということを改めて知ることができる内容だった。 ・教職員にとって、子ども支援のための相談先として障害者相談支援センターが頭の中に入っていると限らない。どちらかという連携する相談先は“総合教育センター”になることが多い。障害者相談支援センタ</p>		

一には、手帳を取得する以前の段階でも相談窓口があるということを知らなかったのも、知ることができてよい。

・見立てを共有していく部分について、(アニメーションだけでなく)印刷資料にしてほしい。資料になっていると、学校に持ち帰って他教職員に伝えやすくなる。

③ 就学向けサポートブックについて

周知・啓発について

・そもそもサポートブックがどのように使われているのかについて、共有できると良いのではないかな。

・サポートブックを作っている方の中に、活用できていない人がいると思う。→活用できているケースを紹介してもらって、「こういう時にこう使うと役立った」ということを知りたい。

・すくすく園ではサポートブックを作ることを勧めているが、希望者のみに行なっている。多くの場合は、学年末の個人懇談で担任と擦り合わせをしながら作る。保護者はサポートブックを作る過程で、「子どものことを理解していなかった」「過剰な評価をしていた」「保護者が手を出しすぎていると思った」などの気づき生まれることもある。

・サポートブックの活用を継続していく上では、内容の更新が重要。分量が増えるからといって過去のデータを捨てるよりは、前のデータも参考にすることが重要。(例:パニックがあった子が、パニックが消失、その後再びパニックが現われることがある。→その時に以前のデータが役に立つ)。

・サポートブックの使用で気を付けないといけないのは、「書いてあることは先生が(自動的に)理解して対応してくれる」と思い込まれてしまう可能性。そうではなく、あくまで保護者が子どものことを先生に伝える際の“参考”のためのものであることを共有することが重要。

・事業所では、保護者から「学校に何を聞いたらいいのかな?」「何を伝えたらいいのかな?」と聞かれることがあるので、その時にサポートブックの存在を伝えている。

・長久手市のサポートブックは、情報が増えたら書き足すことができる。それによって、入学時だけでなく担任が変わった時や中学進学時にも使える。

・支援学校としては、個別支援計画を作る時に参考にしたい。サポートブックの狙いと学校の欲しい情報にはズレも感じている。学習指導では「〇〇を身に付ける」「〇〇ができるようになる」などがメイン。福祉での「社会参加ができる」というニュアンスと少し違う感じがする。

・サポートブックには、困り感に対して「〇〇したら良い」「〇〇したら落ち着く」など対処法が書いてある。

・地域の小中学校の特別支援担当でも、サポートブックの存在を知らな

	<p>いことがある。→サポートブックの存在が確実に伝わって、困った時に役立ててほしい。学校や放課後等デイサービスの方から、サポートブックを持ってきてほしいというアナウンスがあると保護者にも重要性が伝わるのではないかと。就学説明会でも持参してもらおうように伝えてはどうか。学校見学の際にも持参してもらおうと分かりやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校としては、サポートブックがあれば受け取るが、膨大になると活用しきれない。→教職員との対話が大事で、サポートブックはあくまで補助的なものと位置づけられる。 <p>次回は就学説明会でサポートブックを周知する方法、児童発達支援事業所での取り組みについて共有する。 → 来年度に持ち越し</p> <p>④ 医療的ケアが必要な方に関するアンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月18日に市の担当者会議(子育て支援課・子ども課・健康課・学校教育課・障害者相談支援センター)をして現状の把握、役割の確認、各ケースについて情報共有をした。 ・働きたいけれど就労できていない保護者がいる。市として学校や保育園での受け入れ体制を考えていく必要があるが、常勤の看護師を配置することが現状難しい。 ・子育て支援課としては、学校や幼稚園や保育園などの施設に訪問看護を派遣することについて検討し財政局へ挙げている。派遣可能になれば1回最大90分利用できる。 ・学校教育課としても検討チームを作り、他市町村の動向を調べるなど動き始めている。今月は港特別支援学校に見学に行く予定になっている。 <p>⑥その他</p>
<p>次回開催日時</p>	<p>令和4年2月16日(水) 10時～</p>
<p>次回会場</p>	<p>障害者福祉センター 大会議室</p>

日進市障害者自立支援協議会 専門部会出席者名簿

専門部会名	第4回	子ども部会
日 時	令和3年10月20日(木)10時00分～12時00分	
会 場	障害者福祉センター 大会議室	
専門部会員		
① 谷本 由美		② 山本 哲也
③ 岡田 美穂		④ 澤田 勢津子(欠)
⑤ 丸山 美希		⑥ 中島 範子
⑦ 阿尾 匡晃(欠)		⑧ 柳田 慎吾
⑨ 牧野 泰介		⑩ 近藤 文子

(市職員)

① 岡本 裕美	② 奥田 美紀
③ 信貴 朋子	

(事務局)

① 石川 博之	② 福田 有輝
③ 白井 暢子	④ 小島 有紀子
⑤ 西澤 伸太郎	